

公開講座 専門家によるリレー講座

広島文化学園子ども・子育て支援研究センターでは、平成26年から28年までの3年間「音で遊ぼう」というテーマのもと、地域の乳幼児・保護者を対象とした公開講座を開催してきた。平成29年度以降、より多様なニーズに応える公開講座を目指し、子ども・子育て支援に関するテーマを拡充した。子ども・子育て研究センター委員の大学教員がそれぞれの専門性を生かし、子育てのニーズに応えるというものである。令和元年度は公開講座をリレー方式にして3回目の開催となる。

第1回 公開講座 「ベビー ARTワークショップ」

子ども学科2年生「表現領域指導法Ⅱ」（幼保選択必修）の授業の一環として、6月21日（金）と7月9日（火）に乳幼児とその保護者たちと共に造形活動を行った。

【6月21日（金） 11時～12時】

『ベタベタART①』 内容：手形取り＆シール貼り
学生数：8名

手形取りでは、本年度初めて「特大水性スタンプ台インクパッド（HomeSailing）」を使用した。昨年度まではチューブの絵の具を使用していたが、感触が苦手な子どもは怖がったり泣いたりするなどの問題があった。絵の具の感触がヌルツとしたものであるのに対し、スタンプ台の感触はス

ポンジのようなものなので、子どもの抵抗感を和らげるという利点がある。また、すぐに乾くので加筆などの作業が続く場合に適している。一方で、チューブの絵の具に比べて発色が悪い、また様々な感触に触れて乳幼児の感覚を鍛えるという視点からは課題も見られた。

「シール貼り」とは円形のシール（直径1cm～3cm）を貼って絵を完成させていくもので、未満児の発達に適した造形活動として保育園などで取り入れられている。手形取りは、白い紙に子どもの手形のみを写し取るのではなく、子どもの手形が写されることで絵が完成する活動にした。両者とも「シールもしくは子どもの手形が加えられることによって完成する絵柄」を考案しなくてはならない。学生たちは、事前準備の授業でその台紙を作成した。絵柄の考案にあたっては「3歳未満の子どもが理解でき、親しみが持てるもの」「保護者も子どもも喜ぶ美しくてかわいらしいもの」になるように留意を促した。

【7月9日（火） 11時～12時】

『ベタベタART②』 内容：手形取り手形取り＆シール貼り 学生数：3名

この回も手形取りとシール貼りの活動を行なった。しかし、1回目の「子どもの手形が写されることで絵が完成する」活動とは異なり、「子どもの手形を魚にみたと、黒の円形シールで目を貼る」という活動であった。白い画用紙に手形を取り、手形に沿って切り抜いて水槽型の型紙に貼り、最後にシールで目を貼る。愛らしいデザインで保護者から高評価を得る活動となった。

第1回	2019年 6月21日（金） 7月9日（火）	ベタベタアート ベタベタシール貼り ベタベタ手形金魚	小笠原（子ども学科・准教授）
第2回	10月10日（木）	音で遊ぼう！楽器で遊ぼう！	和田（音楽学科・准教授）
第3回	11月15日（金）	保育園ってどんなところ？ 幼稚園ってどんなところ？	合原（子ども学科・准教授） 丸山（保育学科・准教授）
第4回	12月6日（金）	みんなで語ろう！ 子どもの食事の困りごと	江坂（食物栄養学科・准教授）
第5回	2000年 2月7日（金）	おもちゃ・絵本・子ども文化を語り合おう	田頭（保育学科・教授）



写真 1 : 学生による手遊びと活動内容の説明。



写真 2 : 子供の手形が花になる。



写真 3 : シール貼りをする子どもと学生。



写真 4 : 特大水性スタンプ台インクパッド (HomeSailing) と学生の試作品



写真 5 : 子どもと活動をする前に、自分たちで試作を行う。学生の試作では「大きな水槽にみんなで魚を泳がせる」子ども用には「小さな水槽を各自に配る」方法にした。



写真 6 : 完成見本を見せながら活動の説明をする学生。



写真 7 : 自分の手形 (魚) に目を貼る子ども

(文責：小笠原 文)